

採択基準	基本観点	発行者名
		9 開隆堂
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<p>1年を1冊、2・3年を1冊の合計2冊で構成している。 (総題材数=44、総ページ数=164)</p> <p>題材を、絵画・彫刻とデザイン・工芸の視点及び表現と鑑賞の視点から分類して示し、巻頭・巻末にガイダンスや資料の内容を取り上げている。</p> <p>各題材について、1題材2ページ見開きを基本として取り上げているが、題材によっては4ページ～6ページ構成にして取り上げている。「絵巻物の世界」では、作品解説のため逆ページとなっている。</p> <p>題材ごとに目標に対する「ふりかえり」を示している。 また、基礎的な技法や知識などの内容も示している。</p> <p>鑑賞用の図版として同じテーマで表された日本と西洋を見開きに配置し、比較できるように取り上げている。原寸ギャラリーでは「桜図」「樹花鳥獣図屏風」の原寸大の写真に掲載し質感や表情がわかるよう取り上げている。2・3年の巻末には「人の表情」を視点に美術の歴史を紹介している。</p>
	別表1	
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な内容の定着を図るための配慮	<p>1年の巻頭で「集める・試す・組み立てる」で発想構想を広げる過程を、巻末に「パレットコーナー」「工具箱」「色彩ホームページ」のページを設け、材料や用具の扱いについて確認したり、形や色彩について学んだりできる内容を取り上げている。 また、題材のページに関連するガイダンス、巻末の資料のページを示している。</p> <p>題材ごとに四つの観点から学習のねらいと学習の振り返りの問いかけを示している。また、題材の構成に〔共通事項〕を基盤においている。(鑑賞は示さず2観点に基づいた問いかけを示している。)</p> <p>それぞれの巻頭のページで知的財産権や肖像権などへの配慮を示した記述を掲載している。また、風景画制作において写真を活用する際の注意を示している。</p>
	別表2	

発行者名	
33 光村	116 日文
<p>1年を1冊、2・3年を1冊の合計2冊で構成している。 (総題材数=51、総ページ数=172)</p> <p>題材を、絵画・彫刻とデザイン・工芸の視点及び表現と鑑賞の視点から分類して示し、巻頭に「はじめに」、巻末に「学習を支える資料」の内容を取り上げている。(鑑賞も含む)</p> <p>各題材について、1題材2ページ見開きを基本として取り上げている。 (折り込みページは除く)</p> <p>題材ごとに目標と問いかけを示している。 また、題材ごとに発想を広げたり構想を練ったりする際の手掛かりも示している。</p> <p>鑑賞用の図版として折り込みの見開きページで「風神雷神図」や「ゲルニカ」を大きく取り上げている。また、1年「火焰型土器」、2・3年「灰色のフェルト帽の自画像」「鳥獣花木図屏風」「平螺鈿背円鏡」など原寸大の写真に掲載し質感や表情に注目して取り上げている。2・3年の巻末には美術史年表とともに「トピックス美術史」で詳しく解説している。</p>	<p>1年を1冊、2・3年を上巻・下巻に分冊して2冊の合計3冊で構成している。 (総題材数=59、総ページ数=173)</p> <p>題材を、絵画・彫刻とデザイン・工芸の視点及び表現と鑑賞の視点から分類して示し、巻頭に「オリエンテーション」、巻末に「学習に役立つ資料」の内容を取り上げている。</p> <p>各題材について、1題材2ページ見開きを基本として取り上げている。 (折り込みページは除く)</p> <p>題材ごとに副題として目標が明確に示されている。 また、題材ごとに「POINT」として要点も示している。</p> <p>鑑賞用の図版として折り込みの見開きページで1年では田中一村の「奄美の海に蘇鉄とアダン」2・3年上では葛飾北斎の浮世絵2点並べるとともに紙質を本物に近いものに替え、視覚だけではなく手で感じるができる。2・3年下では仏像を大きく取り上げている。美術史年表においては我が国と諸外国の関わりを示している。</p>
<p>1年の巻頭で、幼児の美術活動から図画工作をはじめ、これまでの造形活動を振り返りながら、美術とは何かを考える内容を取り上げている。巻末に「学習を支える資料」のページを設け、形や色彩について学んだり、材料や用具の扱いについて確認したりできる内容を取り上げている。 また、題材のページに関連する巻末の資料のページを示している。</p> <p>題材ごとに四つの観点から学習のねらいを示している。併せて〔共通事項〕を意識するための問いかけを示している。(鑑賞は2観点)</p> <p>映像メディアの活用についての資料において知的財産権や肖像権などへの配慮を示した記述をしている。</p>	<p>1年の巻頭で、図画工作の活動を振り返りながら、美術の学習に見通しを持つ内容を取り上げている。巻末に「学習に役立つ資料」のページを設け、形や色彩について学んだり、材料や用具の扱いについて確認したりできる内容を取り上げている。 また、題材のページに関連する巻末の資料のページを示している。</p> <p>題材ごとに四つの観点から学習のねらいを示している。題材の学習内容のポイントで〔共通事項〕を意識するためのアドバイスを示している。(鑑賞は2観点)</p> <p>巻頭のページで知的財産権や肖像権などへの配慮を示した記述を掲載している。また、写真撮影の資料においても注意を示している。</p>

採択基準	基本観点	発行者名
		9 開隆堂
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<p>3年間で多様な表現方法の経験ができるよう題材を配列している。また、表現意図に応じて表現方法を選択できるよう、多様な表現方法や作品例を取り上げている。共同制作についても1年生から取り上げている。</p> <p>発想や構想を練る際のヒントを図や写真を挿入して示している。また、「作者の言葉」や作品解説をつけて作品例を取り上げている。</p> <p>鑑賞のきっかけとなる問いかけなどを示して言語活動を促している。</p> <p>別表3</p>
	(3) 生徒が自主的に学習に取り組むことができる配慮	<p>巻頭のページで、1年は美術とは何かについて取り上げている。2・3年では、他者との関わりや美術の関わりについて取り上げている。</p> <p>題材ごとの学習のねらいを明記している。(4観点、鑑賞は2観点)</p> <p>制作過程・学習過程を示した事例を取り上げている。</p> <p>目次のページに、題材の分野や内容ごとの色や印による分類と、囲み枠や印の意味についての説明を掲載している。</p> <p>全ての表現や鑑賞を行う題材に、生活の中の造形や美術の働きを実感させる内容を取り上げている。</p> <p>1年からキャリア教育の視点に立った題材やコラムを取り上げている。</p> <p>ある美術館を例に、美術館の特徴を紹介する内容を取り上げている。</p> <p>別表4</p>
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	<p>学習指導要領に示していない内容は取り扱っていない。</p> <p>別表5</p>
	(5) 他の教科等との関連	<p>道徳との関連を示す表記はないが、美術の創造による豊かな情操は道徳性の基盤を養うものとして、他の題材においても道徳との関連が見受けられる。</p> <p>別表6</p>
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<p>美術作品より生徒作品を多く取り上げている。</p> <p>取り上げている作家は1年18名、2・3年84名で、国内外問わず多様な作家を取り上げている。</p> <p>折り込みページを設けて、資料的な内容を全体的に見渡せるとともに横長の作品をより大きく表示し全体を鑑賞できるようにしている。</p> <p>別表7</p>

発行者名	
33 光村	116 日文
<p>3年間で多様な表現方法の経験ができるよう題材を配列している。また、表現意図に応じて表現方法を選択できるよう、多様な表現方法や作品例を取り上げている。</p> <p>発想や構想を練る際のヒントを、それを表す印を設けて示している。また、「作者の言葉」や作品解説をつけて作品例を取り上げている。</p> <p>言語活動を促す問いかけを「目標」の欄に示している。</p>	<p>3年間で多様な表現方法の経験ができるよう題材を配列している。また、表現意図に応じて表現方法を選択できるよう、多様な表現方法や作品例を取り上げている。</p> <p>発想や構想を練る際のヒントを、「POINT」という印を設けて示している。また、「作者の言葉」や作品解説をつけて作品例を取り上げている。</p> <p>言語活動を促す問いかけを「学びのねらい」の欄に示している。また「鑑賞との出会い」では囲み枠に、鑑賞活動に共通する具体的な問いかけを示している。</p>
<p>巻頭のページで、1年は美術とは何かについて取り上げている。2・3年では美術と生活との関わりについて取り上げている。</p> <p>題材ごとの学習のねらいを明記している。(4観点、鑑賞は2観点)</p> <p>制作過程・学習過程を示した事例を取り上げている。</p> <p>目次のページに、題材の分野や内容ごとの色や印による分類と、囲み枠や印の意味についての説明を掲載している。</p> <p>デザイン・工芸の表現や鑑賞を行う題材を中心に、生活の中の造形や美術の働きを実感させる内容を取り上げている。</p> <p>2・3年の巻末に、キャリア教育の視点に立ったコラムを取り上げている。</p> <p>複数の美術館を例に、美術館の役割や活用例を紹介する内容を取り上げている。</p>	<p>巻頭のページで、1年は図画工作から美術へのつながりと美術の学びについて取り上げている。2・3年上では学びの深まり、2・3年下では探求としての学習について取り上げている。</p> <p>題材ごとの学習のねらいを明記している。(4観点、鑑賞は2観点)</p> <p>制作過程・学習過程を示した事例を取り上げている。</p> <p>目次のページに、題材の分野や内容ごとの色や印による分類と、印の意味についての説明を掲載している。</p> <p>デザイン・工芸の表現や鑑賞を行う題材を中心に、生活の中の造形や美術の働きを実感させる内容を取り上げている。</p> <p>2・3年下の巻末に、キャリア教育の視点に立ったコラムを取り上げている。</p> <p>ある美術館を例に、美術館の役割を紹介する内容を取り上げている。</p>
<p>学習指導要領に示していない内容は取り扱っていない。</p>	<p>学習指導要領に示していない内容は取り扱っていない。</p>
<p>道徳との関連が明記されており、17題材において道徳と関連させたメッセージを掲載している。また、美術の創造による豊かな情操は道徳性の基盤を養うものとして、他の題材においても道徳との関連が見受けられる。</p>	<p>道徳との関連が明記されており、15題材において道徳と関連させたメッセージを掲載している。また、美術の創造による豊かな情操は道徳性の基盤を養うものとして、他の題材においても道徳との関連が見受けられる。</p>
<p>1年では、生徒作品と美術作品を概ね同数取り上げ、2・3年では生徒作品よりも美術作品を多く取り上げている。</p> <p>取り上げている作家は1年62名、2・3年121名で、国内外問わず多様な作家を取り上げている。</p> <p>折り込みページを設けて、資料的な内容を全体的に見渡せるとともに横長の作品をより大きく表示し全体を鑑賞できるようにしている。</p>	<p>1年では美術作品よりも生徒作品を多く取り上げ、学年が上がるごとに生徒作品より美術作品を多く取り上げている。</p> <p>取り上げている作家は1年46名、2・3年上75名、2・3年下55名で、国内外問わず多様な作家を取り上げている。</p> <p>折り込みページを設けて、資料的な内容を全体的に見渡せるとともに横長の作品をより大きく表示し全体を鑑賞できるようにしている。</p>